

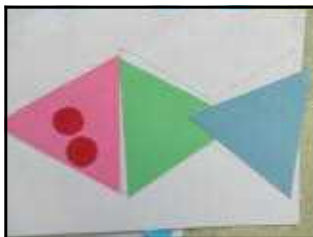
教材教具および題材	学部	授業名・集団名 (主たる教科領域)	執筆者
○△□でつくろう	小	グループ学習 低学年あじさい (算数・図画工作)	土橋知幸 奥林美紀

<ねらい>

- ・形や色、大きさなどの違いがわかるようになる。
- ・型の上に置いたり、見本を見たりして、何を作るのかをイメージしながら作る。

<内容(作成方法・使用方法・工夫点など)>

- ①まず最初に、絵本『このかたちなあに』の読み聞かせをした。この絵本は、双子のクマが大きな紙にお絵かきをするお話で、読み聞かせを通して丸、三角、四角をいっぱい組み合わせせて描いていくと「魚」や「家」、「ロケット」、「自動車」など、いろいろなものができる面白さを児童に伝えた。
- ②色画用紙でいろいろな色や大きさの丸、三角、四角を用意した。児童に「この形は?」「これは何色?」「どっちが大きい?」などと尋ねながら、形や色、大きさなどに興味を持ったり、関心を高めたりする取組を行った。
- ③それらの形を組み合わせせて「魚」や「家」、「ロケット」、「自動車」といった作品を作ることに取り組んだ。最初は、白画用紙にあらかじめ、それぞれの形の枠組みを描いておき、その上にスティックのりで貼る、という方法で取り組んだ。
- ④同じ形のところに貼ることで、「魚」や「家」などの作品ができることがわかってくると、児童の実態に合わせて、枠組みのない白画用紙の上に見本を見ながら形の置き方を考えて貼ることに取り組んだ。



<良かった点・改善点(児童生徒の反応を含め)>

- ・授業では題材を2つに絞り、どちらを作るのかを選ばせた。また、いろいろな色や大きさを用意しておくことで、好きな色を選んだり、どの大きさが合うのかを考えたりして取り組む姿が見られた。自分で決めたり選んだりすることが課題となる児童達なので、より意欲的に授業に取り組むことができた。
- ・児童の課題に応じて手立てや工夫を講じることができた。形を弁別することが課題の児童には、白画用紙にペンや鉛筆で枠組みを描いておいた。イメージを膨らませて作る児童には、見本を提示し、白紙の画用紙に置き方を考えて作るようにした。
- ・それぞれの形を使用するであろう枚数を予想しながら準備しておくこと(予め授業前に形に切っておくこと)が必要であった。パーツの種類が多いので児童が選んで貼れるように、提示のしかたや出し方をもう少し工夫すればよかった。

<その他(材料、費用、購入先等)>

- ・色画用紙、白画用紙、のり(それぞれ100円ショップで購入)